

3月19日（水） 本年度第36回（通算2722回）

「世界理解と平和について」

担当/国際奉仕委員会

12時30分～釧路プリンスホテル

■お客様

宮城島 拓人様（イルファ釧路代表：釧路労災病院副院長・内科医）

■メーカー

3月17日 北川 健二君、小野寺 英夫君、佐渡 正幸君、中嶋 嘉昭君、平井 昌弘君（釧路北RAC）

3月15・16日 足立 功一君、佐渡 正幸君（地区研修セミナー）

■出席報告【会員総数69名 免除7名 出席計算に用いた会員数69名】

出席者 30名 本日の出席率 43%

■ニコニコ献金

- ・本日の講師、宮城島先生よろしくお願ひします ～小野寺 英夫君
- ・本日の例会よろしくお願ひします ～徳山 淳一君
- ・岡田君3年間ありがとうございました ～佐渡 正幸君
- ・岡田君、元気でね ～中嶋 嘉昭君
- ・新天地でもがんばれ ～石井 東洋彦君、北川 健二君、横田 國勝君
- ・拓ちゃん、3年間お疲れ様でした ～中島谷 友一朗君
- ・巧ちゃん、お疲れ様でした。良き思い出をありがとう ～坂入 信行君
- ・拓ちゃん Good Luck! ～本間 弘人君
- ・3年間ありがとうございました ～岡田 拓君
- ・商業、新卒者雇用しました ～平井 昌弘君
- ・誕生日です。57歳になりました ～萩原 昭博君

■会長挨拶 《小野寺会長》



みなさんこんにちは。先週の雪は吹き溜まりができ、まだまだ油断できませんが、少しずつ春の足音が聞こえてきております。

最初に残念な報告ですが、浜中クラブの道下パストガバナーが札幌にて亡くなられ3月7日8日に通夜告別式が行われました。クラブから弔電と香典を送りました。ご冥福をお祈りいたします。又、岡田拓会員が転勤となります。3年間本当にありがとうございました。アントニオ猪木が見れなくなるのがさびしいです。府中での活躍を期待しております。今年から2500地区のプログラムとして地区内の児童養護施設から高校卒業後に進学する生徒さんを対象に一時金ではありますが奨学金を送って応援しようという事業が始まりました。地区内6か所の施設が対象で釧路まりも学園が対象になり北ロータリークラブがホストクラブとなりました。それで先週佐渡幹事と一緒に伺い松原理事長立会いの下、看護学校に進学する目のきらきらした女子生徒に現金5万円と目録を贈呈してきました。久しぶりにまりも学園に行ったのですが、ちょうど学校から帰ってくる園生がおりましたがみんな元気にあいさつしてくれまして子供たちがのびのびしているという印象を受けました。きっと松原理事長を始めとしてスタッフ皆さんの思いが伝わっているのかなと思ひ心が温かくなりました。

連日ウクライナのクリミアのことが報道されておりますが、よりよき方向に向かうことを願うばかりです。

■幹事報告 《佐渡幹事》



- ・シドニー国際大会の参加募集がきておりますので、参加者をご連絡ください。
- ・5月10日屈斜路プリンスホテルにて、葎本セミナーが開催されます。参加希望者をご連絡ください。
- ・本日講演いただく宮城島先生の活動団体「イルファ釧路」の広報誌をお配りしております。



イルファア鉦路
代表 宮城島 拓人様



イルファア鉦路とは？

イルファアは稲田頼太郎博士が中心となって、1993年ニューヨークに設立されました。

その後、2011年、拠点を日本に移し、NPO法人イルファアが設立されました。

イルファアは、2000年よりケニア・ナイロビでの無償医療活動（フリーメディカルキャンプ）を実施し、HIVの実態調査も合わせて行っています。現在、稲田博士がケニアに在住し、活動を続けています。

イルファア鉦路はイルファアの活動を支援すること、鉦路地区でのHIV/AIDSの啓発活動をするを目的とし、2004年8月に結成されました。主な活動は、総会を兼ねた拡大勉強会、啓発を目的としたライブコンサート、ケニア・フリーメディカルキャンプへの人材（毎年、宮城島ほか数名）派遣、くしろ健康まつり参加、師走講演会などです。

HIV/AIDSの最近の話題 (5) 抗HIV薬の暴露前予防投与の効果

イルファア 代表
宮城島 拓人

HIV感染者に適切な時期にきっちり抗HIV薬を投与すると、HIVは感度以下にコントロールされエイズにならないようになりました。

最近さらに進んで、抗HIV薬の暴露前予防投与（pre-exposure prophylaxis）、すなわち、HIVに感染する前に服用することでHIVの感染を抑えられるというエビデンス（証拠）が、特に感染リスクの高い集団に認められるようになりました。

これまでの研究では、異性カップルおよび同性（男性）カップルの性交渉によるHIV感染と、HIV母子感染の低減に暴露前予防が有効であることが確認されていますが、今回のLancetの論文（Lancet 2013; 381: 2083-2090）では、静注薬物使用者へのデノホビル（抗HIV薬の主要薬剤）の予防投与で、HIVの感染リスクがおおよそ50%低下したと報告されました。

これによって主要なHIV感染の高リスク集団すべてに暴露前予防が有効であるとの報告がそろったことになり、感染経路が性交渉か静注薬物使用にかかわらず、暴露前予防が重要な感染予防の選択肢となる可能性が示されたこととなります。

もちろん、静注薬物使用者へのHIV予防介入には、暴露前予防だけでは片手落ちで、注射針交換プログラムや静注麻薬の代用としてのmethadone投与プログラム、HIVカウンセリングなどを有効的に組み合わせる必要がありますが、東欧や中央アジアなど新規HIV感染者の80%が静注薬物使用者が占めるような地域では、特に暴露前予防の有効性が期待されると思われます。

もともと、静注薬物使用をやめさせればよいことなのですが、アルコール中毒やニコチン中毒が社会から消えないように、そう簡単にはいかないというのが人間の弱さゆえの性（さ）かなのでしょうか。



2013年9月13-24 フリーメディカルキャンプ '13 レポート

イルファア鉦路 石川 兼徳（鉦路労災病院 内科医）

●2013年9月13日(金) きみ出発

集合時間ギリギリまで病院で残務を整理し、看護師さん達に「先生まだいたの？早くしないと遅れちゃうよ」と背中を押されて鉦路空港へ。我々鉦路組（宮城島先生、桶坂さん、石川は、鉦路→羽田→成田と移動し、札幌組（佐藤先生、古部さん）と東京組（青山さん）と合流。最後の日本食（お蕎麦）を食べて、いざ出陣。一路、アバドビへと向かう。エティオピア航空での旅であったが、機内は恐ろしく寒かったのが印象的。長袖+毛布2枚は必須。

●2013年9月14日(土) 朝から

アバドビ（アババ首長国連邦）に到着。ナイロビ便まで時間があるため、飲みながら（もちろんアルコール）今回のケニアキャンプへの意気込みを互いに語り合う。

到着したナイロビのケニアヤタ空港は火災から完全復活しておらず、かなりして屋根と壁がある程度。人国も脱出もほぼスルー。引き止められたり絡まれたりせず、大きな問題もなく空港を脱出してケニア組（桶田先生、西倉くん、アリ、ワンゴ、アブドゥラ）と合流する。

挨拶を交わした後、無事到着を祝って乾杯。タスカを片手に神戸組（福地先生、蓮池先生）と札幌組（そのと橋本先生）を持つ。2時間後、ようやく全員集合。一同帰って宿泊場所へ。途中、道端でキリンとシマウマを見かけ、アフリカに来たことを実感。

●2013年9月15日(日) Day 0 ~ HIV positive follow-up

本日はHIV positive 患者のfollow。新たにケニア組その2（五十嵐さん、その他現地スタッフ）と挨拶を交わす。メインは歯科と鍼灸で、忙しいながらも彼らを横目に我々内科は英語のリハビリを兼ねて診察の練習。

●2013年9月16日(月) Day 1

ナイロビの平日の朝は交通渋滞が酷い。とにかく車が多く、そして交通ルールもマナーもあつたもんじやない。名ドライバー：アブドゥラの運転が無事に臨時クリニックへ到着。自然と拍手が沸き起こる。

ケニアは基本ポレポレ（Polepole: ゆっくり）な姿勢なので診察準備がなかなか進まず、初日は午後診療で終了。私の記念すべき初患者はいきなり心不全。「咳・眼の痛み・胸痛の訴えが多いよー」と聞いていたので、不意打ちをくらった感じ。日本であれば色々な検査や治療ができたであろうが、今回のキャンプでは資源に限りがあり、検査一聴診器・血圧計・ペンライト、薬一時治療法が中心であるため、呼吸器・下腿浮腫に対して利尿剤と塩分制限指導をして終了。「これしかできなくて申し訳ない」と頭を下げる私に対して、「ありがとう」と返してくれる患者さん。与えられた環境で、自分ができる限りのことをしよう！と心に決める。

続きはWeb で!!
<http://bsystem-jp.com/ilfar946/>



丁寧な診療を心掛けています 鉦路労災内科医



百島組在典の五十嵐真希さんと一緒に



「文・イラスト 島中英希」